



2019年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年4月25日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 2019年5月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の業績(2018年10月1日～2019年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	1,644	21.1	17	42.7	18	40.5	8	51.7
2018年9月期第2四半期	2,084	4.3	30	58.0	31	57.2	17	67.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	0.60	
2018年9月期第2四半期	1.24	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年9月期第2四半期	1,556	1,100	70.7	77.76
2018年9月期	1,542	1,092	70.8	77.16

(参考)自己資本 2019年9月期第2四半期 1,100百万円 2018年9月期 1,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期		0.00		0.00	0.00
2019年9月期		0.00			
2019年9月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 2019年9月期の業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期2Q	14,436,600 株	2018年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	2019年9月期2Q	278,800 株	2018年9月期	278,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期2Q	14,157,800 株	2018年9月期2Q	14,157,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社は消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当第2四半期累計期間において、商品につきましては、①豆腐、豆乳、おから等を使用した「茂蔵オリジナル商品」、②それ以外の厳選された「定番商品」、③協力工場等からの「本日のお買い得品」の3つに分類し、特に「三代目茂蔵」でしか購入することのできない「茂蔵オリジナル商品」について、新商品開発及び既存商品の見直しに注力しております。具体的には、動物性たんぱく質を植物性たんぱく質へと置き換えた商品や、通常の豆乳を「超濃厚」と「低脂肪」に分け、それぞれの特徴を生かした商品を積極的に開発し、特にデザートなどの高付加価値商品の開発に注力しました。また、当第2四半期会計期間より既存商品の価格の見直しを順次行い、買上単価の上昇と利益の改善に努めました。

当第2四半期累計期間の売上高は1,644,078千円（前年同四半期比21.1%減）、営業利益は17,188千円（前年同四半期比42.7%減）、経常利益は18,463千円（前年同四半期比40.5%減）、四半期純利益は8,498千円（前年同四半期比51.7%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

（小売事業）

当セグメントにおきましては、「三代目茂蔵」ブランドの認知度向上を推し進めるため、新規顧客の獲得と既存顧客のリピート率向上を目的とし、豆腐専門店としての認知度をより高めるため、7店舗の既存店舗においてリニューアル改装を行い、顧客数の増加に努めましたが、「茂蔵オリジナル商品」を中心とした商品の品質等の見直しによる改廃により一時的にアイテム数が減少したこと等の要因から想定以上の顧客数の減少となり、1店舗平均の顧客数は前年同四半期比94.6%となりました。1店舗平均の顧客単価につきましては、上記に記載した高付加価値商品の販売が貢献し、前年同四半期比105.3%となりました。また、出店エリアの見直し等によるスクラップアンドビルドに取り組んでおり、店舗数が前年同四半期末と比較して9店舗減少しております。出店につきましては条件や店舗形態等の見直しを行い、出店準備を継続して進めております。

以上の結果、小売事業の売上高は1,467,046千円（前年同四半期比17.4%減）となりました。また、パート従業員の時給上昇などによる人件費の増加等も影響し、セグメント利益（営業利益）は73,294千円（前年同四半期比2.7%減）となりました。

（その他事業）

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は177,032千円（前年同四半期比42.5%減）、セグメント利益（営業利益）は15,194千円（前年同四半期比35.6%減）となりました。

なお、当第2四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

（単位：店）

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第2四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」（直営店）	50	—	5	45
その他事業	「三代目茂蔵」（加盟店）	77	1	4	74
合計		127	1	9	119

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して14,089千円増加し1,556,634千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加62,380千円及び敷金及び保証金の減少29,116千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して5,591千円増加し455,779千円となりました。主な要因は、買掛金の増加14,687千円及び未払金の減少5,900千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して8,498千円増加し1,100,855千円となりました。これは四半期純利益8,498千円の計上により利益剰余金が8,498千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度と比較して62,380千円増加し493,368千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、39,434千円(前年同四半期は65,926千円の収入)となりました。これは主に、増加要因として税引前四半期純利益18,277千円、減価償却費及びその他の償却費17,677千円、仕入債務の増加額14,687千円、減少要因として未払金の減少額14,388千円及び法人税等の支払額9,960千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、22,982千円(前年同四半期は7,674千円の支出)となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入29,116千円及び有形固定資産の取得による支出6,681千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、34千円(前年同四半期は34,865千円の支出)となりました。これは配当金の支払額34千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	430,987	493,368
売掛金	90,038	87,152
商品	39,731	34,176
貯蔵品	1,413	984
その他	42,731	40,542
貸倒引当金	△40	△40
流動資産合計	604,863	656,184
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	99,442	99,776
構築物(純額)	7,110	6,594
工具、器具及び備品(純額)	18,399	17,334
土地	562,970	562,970
その他(純額)	6,291	5,379
有形固定資産合計	694,215	692,056
無形固定資産	10,652	10,199
投資その他の資産		
敷金及び保証金	167,829	138,712
その他	65,192	59,678
貸倒引当金	△208	△197
投資その他の資産合計	232,813	198,194
固定資産合計	937,681	900,449
資産合計	1,542,544	1,556,634
負債の部		
流動負債		
買掛金	287,538	302,225
未払金	95,573	89,672
未払費用	42,133	39,049
未払法人税等	16,382	16,520
その他	7,209	6,359
流動負債合計	448,836	453,828
固定負債	1,350	1,950
負債合計	450,187	455,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	12,690	21,188
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,092,241	1,100,739
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	115	115
評価・換算差額等	115	115
純資産合計	1,092,357	1,100,855
負債純資産合計	1,542,544	1,556,634

（2）四半期損益計算書
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 2017年10月1日 至 2018年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自 2018年10月1日 至 2019年3月31日）
売上高	2,084,356	1,644,078
売上原価	1,473,214	1,129,562
売上総利益	611,141	514,516
販売費及び一般管理費	581,135	497,327
営業利益	30,006	17,188
営業外収益		
受取利息	108	105
未払配当金除斥益	441	430
受取保険金	—	1,060
その他	492	86
営業外収益合計	1,042	1,683
営業外費用		
和解金	—	400
その他	11	8
営業外費用合計	11	408
経常利益	31,038	18,463
特別利益		
固定資産売却益	—	49
債務保証損失引当金戻入額	1,525	—
特別利益合計	1,525	49
特別損失		
減損損失	1,451	—
固定資産除却損	55	236
店舗閉鎖損失	372	—
特別損失合計	1,878	236
税引前四半期純利益	30,684	18,277
法人税、住民税及び事業税	13,105	9,779
法人税等合計	13,105	9,779
四半期純利益	17,579	8,498

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	30,684	18,277
減価償却費及びその他の償却費	16,417	17,677
減損損失	1,451	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△11	△11
債務保証損失引当金の増減額 (△は減少)	△3,050	—
受取利息及び受取配当金	△108	△105
為替差損益 (△は益)	2	1
固定資産売却損益 (△は益)	—	△49
固定資産除却損	55	236
店舗閉鎖損失	372	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,969	2,895
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,308	5,984
仕入債務の増減額 (△は減少)	40,854	14,687
未払金の増減額 (△は減少)	△2,555	△14,388
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△6,071	3,364
その他	12,689	719
小計	94,008	49,288
利息及び配当金の受取額	108	105
法人税等の支払額	△28,191	△9,960
営業活動によるキャッシュ・フロー	65,926	39,434
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,889	△6,681
有形固定資産の売却による収入	—	50
無形固定資産の取得による支出	△945	△2,250
敷金及び保証金の差入による支出	△1,753	—
敷金及び保証金の回収による収入	983	29,116
リース債権の回収による収入	3,132	2,737
その他	△1,201	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,674	22,982
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△34,865	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34,865	△34
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	23,384	62,380
現金及び現金同等物の期首残高	584,365	430,987
現金及び現金同等物の四半期末残高	607,749	493,368

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自 2017年10月1日 至 2018年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,776,631	307,724	2,084,356	—	2,084,356
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,776,631	307,724	2,084,356	—	2,084,356
セグメント利益	75,312	23,595	98,908	△68,901	30,006

（注）1. セグメント損益の調整額△68,901千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、1,451千円の減損損失を計上しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間（自 2018年10月1日 至 2019年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,467,046	177,032	1,644,078	—	1,644,078
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,467,046	177,032	1,644,078	—	1,644,078
セグメント利益	73,294	15,194	88,488	△71,300	17,188

（注）1. セグメント損益の調整額△71,300千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。